

リユース・リサイクルをとおして環境・平和を考えるチャリティショップ

WE21 ジャパン・みどりニュース

NO.39 2018・3・1

WEショップは皆様の寄付品を必要な方に買っていただくことで廃棄するものの量を減らし
収益を貧困や紛争で安心して暮らせない人々のための支援に使います



浪江町は今

福島浜通りツアー報告

2011年3月11日、福島第一原発事故による放射能が降り注ぎ、福島県浪江町に住む2万人が一夜にして
住む家を奪われ、生活の基盤を失いました。

そして事故から6年たった昨年3月に町の一部の避難区域が解除されました。

避難解除から半年後の浪江町を訪ね事故当時のことを聞き、今の様子を見てきました。

10月15日、バスは常磐道を北へ、車窓にはのどかな山並みとその間に広がる畑。
やがて福島にはいと畑がセイタカアワダチソウにおおわれ家もあちこち朽ち
ていたりということに気が付きました。
放射能汚染の土壌を入れた袋が積み上げられ、シートで覆われた土地も目に付
くようになってきます。



セイタカアワダチソウに覆われた畑

この日は浪江町のお祭り。役所前には おかえりなさい
の横断幕のもと模擬店が並んでいます。

2万人の町民のうちこの時点で帰ってきたのは100人余
りでまつりにほとんど人の姿がありません。

東京からきたというボディカウンター（放射能測定
器）の車が印象的でした。



鮭といくらのゆるキャラ登場



ボディカウンター搭載車



模擬店



新しい保育園の前で説明する副町長さん

浪江町の海側 双葉町の海を見下ろす高台に
津波で亡くなった方々の慰霊碑があります。
ここから西の方1.5キロのところ福島第1原発
が見えます。首都圏に住む私たちの便利な生活
は福島から送られた電気で賄われていました。



津波で犠牲になった方々のお名前を刻んだ慰霊碑

希望の牧場

津波が起き、翌日に原発が爆発して放射能汚染物質は南東から吹く風に乗って浪江町を覆い、その翌日には浪江町の人々は長年住んだ土地に住めなくなりました。

汚染は避難した人々を追うように広がり多くのペットや家畜が置き去りにされました。

家畜はたとえ生きながらえても流通はできないため殺処分と決まりましたが、酪農家 吉澤さんはそれに反対して汚染された300頭の牛を飼い続けています。

飼い続けることにより放射能の影響のデータもとっています。



酪農家吉澤さん



浪江町物語伝え隊の紙芝居「無念」

津波の夜、がれきの下から助けを求める声に、夜明を待って救助に戻ると約束したのに、翌日の原発事故で立ち入り禁止となり、命を置き去りにして避難せざるを得なかった消防団員の実話。



認定NPO法人いわき放射能市民測定室 たらちね

原発事故後、いわき市で子育てをする数人の母親が中心となって立ち上げたNPO法人。

当初は食品の放射線検査や内部被ばく検査などをしてきましたが、13年から甲状腺検査とそのデータを発信しています。2017年には、市民の健康相談、精神面のフォローをめざした「たらちねクリニック」を開設。

事故後6年を過ぎても放射線物質は漂っています。汚染による影響はこれから現れてくることが予想されます。たらちねが積み上げてきたデータが大きな役割を果たすことでしょう。



たらちね募金

たらちねの活動は寄付によって支えられています。WEショップ・みどりでは、桜募金に代わり2018年度からたらちね募金を始めます。

16周年感謝半額セール

3月12日(月)・13日(火)

東北復興支援として

12日の売上から「たらちね」に寄付します

リメイクチーム

WEショップに寄せられた寄付品の一部はリメイクチームの手によって生まれ変わります。



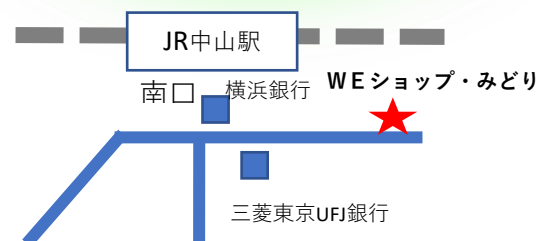
犬のカードクリップ



うさぎの貝巻



ティッシュケース



横浜市緑区中山町218 TEL045(937)2656

営業時間 10:30~17:30 定休日 日曜 祝日

<http://www.we-midori.com/>